



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目 次

図書館が変わります	
ー中央図書館ラーニング・コモنزの 初年度構築計画の概要ー	1
学内図書館・室の学習支援状況	3
中国社会科学院所蔵・ 青木正児博士の書簡（写真）の寄贈	5
東海地区の公共図書館から 図書を取り寄せることができます！	7
本学教員著作物の寄贈リスト	9
利用者から見た図書館	9

図書館が変わります

ー中央図書館ラーニング・コモنزの初年度構築計画の概要ー

増 田 晃 一

1. はじめに

中央図書館では、ここ数年、場所としての図書館のあり方を再検討し、学生の学習支援のための新しい図書館として、グループで相談や議論をしながら学習をすることができたり、デジタル資料と従来からの冊子資料とを同じ場でシームレスに使い、種々の助言や電子資料やソフトウェア利用の指導など人的なサポートも受けられるという、新たな学習空間であるラーニング・コモنزを構築する計画を立てました。教科書と参考書だけで個別に学習するのではなく、大量のデジタル情報をも合わせて駆使し、創造的な考える力をつけられるような学習空間として、平成20～21年度の2年をかけた計画で、2階フロアのほぼ全体と3階の東側の一部をラーニング・コモنزとして整備する計画を進めているところです。

ラーニング・コモنز構築計画については、すでに『館燈』No. 167 (2008. 5. 15) に、「図書館の学習教育支援の現状と新展開についてーラーニング・コモنزの創成ー」として、伊藤附属図書館長からラーニング・コモنزの理念・概要や中央図書館での構築計画が紹介されていますが、本稿は初年次における具体的な構築計

画の概要を紹介するものです。

2. ラーニング・コモنزのゾーニング案

当初の全体計画では、図1のような2階フロアのゾーニングを計画しています。

学習スペースとしては、南側にグループラーニングエリア、北側に多目的ラーニングエリアを配しています。多目的ラーニングエリアでは、資料を広げながらPCを使えるようなゆったりした机を用意します。PCやプロジェクタ機器を配したセミナールームも南北にそれぞれ設置します。従来型の資料を配置している参考図書エリア、雑誌エリア、視聴覚資料・ブース等を集めたAVエリアがあります。ライティングセンターでは、論文・レポートの作成を支援する機器、ソフトウェア、論文作成マニュアル類の図書等を整備します。北側の中央部には「総合サポート」カウンターを設置し、各種の人的支援を行います。

3. 初年次のラーニング・コモنز構築計画

初年次は、中央図書館2階の南側、図1の下側を中心に整備する予定です。玄関・ゲートを入った正面、目録カードボックス、参考図書の



図1 ラーニング・commonsのゾーニング案

書架が配置してある一帯が対象部分です。

目録カードについては、すでに目録情報のほとんどのものがデータベース化され、OPACで検索可能となっていますので、カードボックスは2階フロアから撤去します。なお、書名カードについては、他の階に移設して当分は残しますので、必要な方はそちらでご利用できます。

参考図書や抄録・索引誌は、類似のものを含め電子媒体を導入したり、インターネットで検索可能なものなど、電子的に代替できるものは冊子を別置するなどして、精選したもののみを2階に配置します。別置先は、一部は1階、他は情報連携基盤センターの地下に設置する保存書庫になります。保存書庫のOPACの「配置場所」表示は「中央図 保存庫」となります。

1年次の整備対象エリアは、概ね図2の通りですが、工事その他の都合で他のエリア等にも広がることもあります。机や端末等は仮の図ですのでこのとおりにするとは限りません。

(1) グループラーニングエリア

新たな学習スペースで、これまでのスタンダードである個別学習から、学生同士の議論や共同作業の場として整備します。机やイスなどの什器は移動可能なものとし、人数に応じて机やイスを集めることができ、グループでの学習に対応します。

ホワイトボード、スクリーン、プロジェクター

を複数台用意し、プレゼンテーションやそのトレーニングもできます。

エリア内に検索やコンテンツ利用のためのPCを配置するとともに、無線LANを整備し、持込みPCによるネットワーク接続も可能とします。

(2) 情報リテラシーサポートエリア

従来の参考調査カウンターを核に、OPAC 端末、CD-ROM等の情報検索コーナーやマイクロリーダープリンターを周辺に配置します。ここでは少人数の情報リテラシー講習会も随時でき、また職員のサポートを受けられる機器や態勢を構築します。

(3) セミナールームB

情報サポートエリアに隣接してセミナールームBを設け、従来サテライトラボで行っていた図書館の各種ガイダンス・講習会をここで行えるようにします。これによりサテライトラボの利用を制限せずに、ガイダンス・講習会が実施できるようになります。それ以外の時間はPCの利用ができます。また、語学学習の自習もできるようにCALLラボ対応を考慮しています。

(4) 参考図書エリア

参考図書、抄録・索引誌を精選し、西側のエ

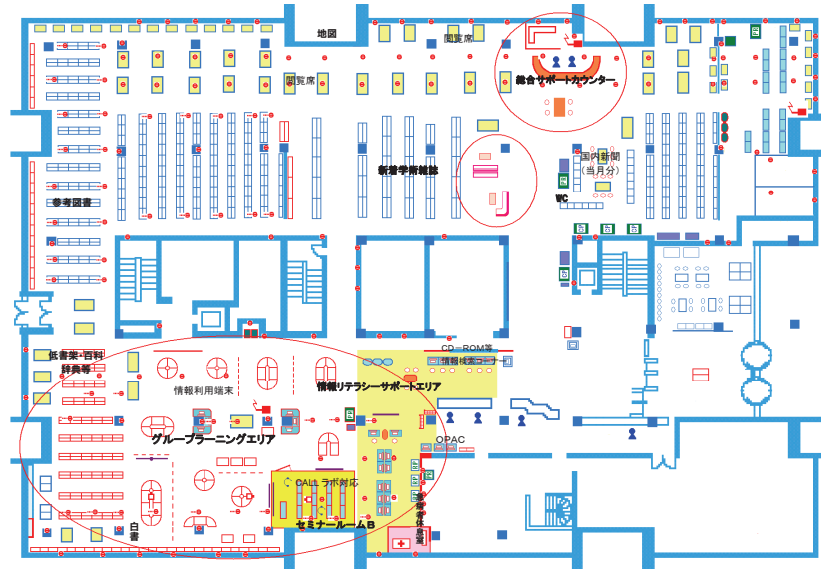


図2 ラーニング・コモنزの初年度構築予想図（赤丸で囲んだ部分が初年度予定の区域）

リアに配置します。白書は、南側の窓のところに低書架を設置し、そこに移動する予定です。また、百科事典類は西側の窓のある付近に新たに設置する低書架に並べる予定です。利用頻度の低下した海外の所蔵目録や書誌類は、多くは地下1階に移動します。

4. おわりに

ラーニング・コモنزは、これまでの静謐な図書館のイメージを変えるものですが、2階フロア以外は従来通りの静謐な空間を維持します。

この新しい学習空間での自由闊達な議論が、将来のノーベル賞へ繋がるかもしれません。

なお、今後年度末にかけてできるだけ図書館を閉館せずに資料やカードボックスの移動、各種工事や家具・機器の設置を行う予定ですので、2階フロアの該当箇所への立ち入りや資料の利用を制限したり、騒音が発生したりする場合がありますが、皆様のご理解をお願いいたします。

（ますだ・てるかず 情報サービス課長）



学内図書館・室の学習支援状況

中央図書館のラーニングコモنزの構築に見られるように、図書館における学習支援に関わる事業が現在重要な課題となっています。課題となっている学習支援とは、学部、大学院に関わらず広く学生全般に対して、その学習・研究活動に図書館が何を提供できるかであり、大学の行う教育活動のアクティビティの高度化に対応しようというものです。

表1に学内の図書館・室で行われている学習支援状況の主なものをまとめて掲載しました。

表にはありませんが、通常の業務である各館・室でのカウンター対応やレファレンスサービスなども重要な支援であることはいうまでもありません。附属図書館は今まで新しいサービスとしてデータベースや電子ジャーナル・電子ブックの充実に努めてきました。今後も更に充実させる方向ですが、今はこうしたものの利用のための情報リテラシー指導が図書館・室の行う学習支援の大きな柱となってきているのが全体的な状況のようです。

表1 学内図書館・室の学習支援状況

	データベース等の整備・利用資料の提供	情報リテラシー指導・教員との連携授業など	教育用資料購入	教育支援情報発信	時間外開館などその他の支援
附属図書館全	<ul style="list-style-type: none"> 30以上の各分野データベースを提供している。本文情報へ誘導するツールのリンクリゾルバを導入し、データベース検索結果より、電子リソースや冊子体、ILL申込み等へのリンクを提示して、様々な本文入手の道筋を示している。 「電子ジャーナル」は15,000タイトル以上を提供しており、蔵書検索OPACの詳細画面からも電子ジャーナルへリンクしている。 「電子ブック」は外国語資料4,500タイトル以上に加え、最近では日本語の辞書・事典を始め、テキスト的な図書等170タイトル以上を導入している。 	<ul style="list-style-type: none"> 附属図書館として専門トレーナーによる電子リソースの講習会を企画して、学内複数ヶ所で開催している。 		<ul style="list-style-type: none"> 図書館ホームページでは、各図書館・室の利用案内やお知らせの広報、各種電子リソースの利用やメンテナンス情報等を発信している。情報リテラシー情報として「ガイダンス・講習会」広報や、テーマ別の「パスファインダー（情報への道しるべ）」を提供している。 	
中央図書館	<ul style="list-style-type: none"> 20台以上の蔵書検索用端末で自由に全学向けデータベースが利用できる。 館内に情報メディア教育センター・サテライトラボを有し、IDを所持していれば検索結果やEJ本文の印刷及びUSBメモリへの保存が可能である。 スタンドアロンで「PDF-2 plus (Powder Diffraction File)」や「明治・大正・昭和の読書新聞」「The Oxford English Dictionary」等を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学新入生ガイダンスでは、図書館利用案内を、留学生オリエンテーションでは、留学生向けの日本語と英語による利用案内をおこなっている。 春季講習会や秋季講習会では、「図書館ツアー」（英語・中国語）をはじめ、「電子ジャーナル」「データベース」「電子ブック」等の電子リソースに関する利用講習会を40回以上開催している。 オーダーメイド講習会は、講習内容や日時を選択でき、教員や学生が依頼しやすいようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新刊書を中心とした学習用図書を選定し、毎年約1万冊程度を購入している。 教員推薦図書、学生購入希望図書を募り、選定、購入している。 「留学生コーナー」を設置し、留学生用の図書、AV資料を提供している。 「就職コーナー」を設置し、関係資料の最新版を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「中央図書館利用案内」の冊子体を日本語版、英語版で発行している。簡易版の中国語、韓国語も作成している。 図書館ホームページで、利用案内をはじめ、中央図書館の資料を利用するためのツールの説明、データベースや図書館資料の利用方法を簡単に紹介した「ガイドシート」等の情報も発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> 平日は8時45分から22時まで、土・日・祝日は8時45分から17時まで開館。今年度の休館日は年末年始(12/27～1/4)、全学停电日(11/16)のみで、年間355日間開館している。 今年度からラーニングコモンズを構築中で、学習支援体制を更に強化することとしている。
医学部分館	Harrison's Online, CMDT Online (ともに電子ブック)を提供している。	<ul style="list-style-type: none"> 医学系研究科院生を対象に、基盤医科学実習「文献検索」(医学部分館長の担当授業)で、医系データベースの利用法の講義と実習を行っている。 医学科3年生を対象に、基礎医学セミナーのガイダンス「情報検索」で、医系データベースと図書館の利用について説明をしている。 	各講座からの推薦図書を購入して提供している。	ホームページに推薦図書目録と欧文業績録を毎年公開している。	休業中を除き、平日は20時まで、土曜日は13時から17時まで開館している。学部3年生以上には時間外カードを発行し、上記時間以外の入館を可能としている。
医学部分館保健学図書室		教員からの依頼により、講義の中で文献の探し方やデータベースの使い方などを説明し、図書室にある資料の紹介を行っている。	シラバス掲載の教科書、参考図書を購入するとともに、学生および教員から購入希望、推薦図書を募り購入している。		休業中を除き平日は20時50分まで、土曜日は15時10分から18時50分まで開室している。利用者用PCを18台設置し、レポート作成等にも供している。
文学図書室			文学研究科の教員著作物を取集し、閲覧に供している(禁帯出)。	ホームページで、利用案内を中心とした情報発信をしている。	
教育発達科学図書室	データベースやCD-ROMは図書室の利用者用端末で閲覧可。文献検索ガイダンスのパンフレットを作成し、ガイダンス時に配布する。	教員の依頼により、講義の中で文献検索ガイダンスを行い、文献の探し方やデータベースの使い方などを説明している。	学生および教員に購入希望、推薦図書を募り、選定、購入している。	利用案内を発行。図書室のホームページを作成し、随時更新提供している。	休業中を除き平日は20時まで、土曜日は13時から17時まで開室している。
附属学校図書室		<ul style="list-style-type: none"> 新入生向けに「図書館オリエンテーション」を実施し学校図書館利用者教育に取り組んでいる。 総合人間科(総合学習)の授業で調べ学習のため図書がよく利用される。生徒たちはフィールドワークを研究の軸として、その前後に図書室で調べ学習をして研究を深めている。 	総合人間科の各学年の研究テーマは、中1・高3が「生き方・キャリア」、中2・高1が「生命と環境」、中3・高2が「人権・国際理解・平和」で、これらのテーマに関する図書の利用が多く、担当学年の教員・生徒の要望に応える蔵書構成に努めている。また、中3の広島学習、高2の沖縄学習を支援するため広島、沖縄に関する図書をコーナーを設け別置している。		
法学図書室	Lexis.com, LexisNexis JP, Lex/DBインターネット、JURIS Online、主要法律雑誌DVDなどの導入を図り、利用環境を整えている。情報リテラシー案内シート「法学図書室での情報検索について(学内向け)」を作成し配布している。	カウンターで、データベースの使い方などの個別対応を行っている。	教員の選定による図書購入で教育に重点をおく配慮をしている。ほかに留学生用図書を毎年、拡充している。	新着図書リストをホームページで毎月掲載している。	3月、8月を除き平日は20時まで開室している。土曜日は法学研究科所属者に対し13時～17時まで開室している。
経済学図書室			シラバス掲載の教科書、参考図書の購入をしている。		月・火・木週日のみ20時まで開室。
附属国際経済政策研究センター	Online、DVD、CD-ROMなど導入。DVD、CD-ROMは付属資料を含め一覧表を作成し整理。図書本体には「付属あり」と明示。オンラインDB利用マニュアル(プロバイダ作成)を、希望者へ配布する。	教員からの依頼により、講義で提示する資料を一定期間抽出・展示し、受講生の利用の便を図っている。オンライン導入時、プロバイダによる説明会を開催している。	統計・年鑑などの基本資料群を継続購入している。	利用案内、CDサーバー検索を公開している。	

	データベース等の 整備・利用資料の提供	情報リテラシー指導・教員 との連携授業など	教育用資料購入	教育支援情報発信	時間外開館など その他の支援
国際開発 図書室	<ul style="list-style-type: none"> オンラインデータベース CIAO の提供、WDI、GDF 等 CD-ROM データベースを提供している。 データベース等の利用パンフレット（A5版16p.）の作成、中央館、教員と連携してパスファインダーを作成している。 図書室利用案内の英語版、中国語版も提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学共通科目担当教員による図書室の利用案内の補助（関連項目のパスファインダー作成や、図書室にある資料の紹介、新聞記事の探し方についてのデータベースの紹介・実習など）を行っている。 業者と共同して ProQuest 講習会、LexisNexis 講習会を開催している。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書室配架用図書として、研究科や専攻毎の購入希望図書を教員から受付し、整備している。その他、学生購入希望図書も受付している。 年2回、講義で使用する図書を指定図書として教員より募集し、コーナーを設けて別置き、学生の利用の便を図っている。 当研究科の学生が読むべき図書を、教員による推薦図書として、コーナーを設けて別置している。 	国際開発図書室ホームページを作成し提供している。	春季休業中・9月を除く夏季休業中を除き、平日は19時まで開室している。
情報言語 合同図書室			総合的な主題の雑誌と教員の推薦図書を購入している。	博士論文のリストと紀要(05年で休刊)の目次をホームページで公開している。	平日は20時まで開室している。
理学図書室			学習用図書の購入(物理・化学図書室)。	化学・生命・地球図書室ホームページを作成し提供している。	化学科構成員のみ化学図書室時間外を利用可能としている。
数理科学 図書室	数 学 系 の DB「MathSciNet」、 「Zentralblatt MATH」を契約提供している。	主に大学院生を対象として、年度当初の図書室の利用ガイダンスとともに、データベースの紹介、デモを行っている。	図書室配架資料は定期的に教員から推薦を受けて購入している。学生からの購入希望も受けている。	数理学図書室のホームページから情報提供している。	理学部数理学科及び多元数理学研究科の構成員を対象に水・金は20時まで開室している。
工学図書室	<ul style="list-style-type: none"> 工学部の研究成果として博士学位論文リスト、科学研究費補助金成果報告書リスト等のデータベースを作成し提供している。 BL inside webを導入(契約部署のみ)し提供している。 	自習用にガイダンス資料「文献の探し方と入手方法」をHPに掲載している。	<ul style="list-style-type: none"> シラバス掲載の教科書、参考図書の購入提供をしている。 教員推薦図書等の購入提供をしている。 		時間外利用を可能にしている(化学生物図書室、機械航空図書室、土木図書室で実施、専攻内のみ)。
生命農学 図書室	<ul style="list-style-type: none"> 博士論文・公開の同意が得られた修士論文のデータベースを作成し、公開している。 図書室○得活用法のリーフレットを作成し、データベースの利用法について解説している。 	<ul style="list-style-type: none"> 新生入生向けの「情報リテラシー入門」の授業の一コマを使って、図書室の利用案内、OPAC及び日本語データベースの利用法の講義と実習を行っている。 4年生、および他大学から入学した大学院生を対象に、少人数のグループ形式でデータベースの利用ガイダンスを実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生開架図書を購入し提供している。 学生厚生経費・大学院経費による雑誌(一般雑誌を含む)の購入提供をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学部内者、学内者、学外者用に、それぞれ日本語と英語による利用案内を作成している。 ホームページでも、利用案内等の情報発信をしている。 	平日は20時まで開室している。部局内院生以上は土日祝日のカード入室を可能としている。

中国社会科学院所蔵・青木正児博士の書簡（写真）の寄贈

加藤 国安

2008年8月、北京オリンピックの祭典に合わせるかのように、北京から本学附属図書館にじつに貴重な資料が寄贈されてきた。ひょっとして名古屋出身者が活躍した女子レスリングや女子ソフトボールに関するものかと色めき立つが、申し訳ないけれどもそうではない。でも、やはり中国・北京に大いに絡むものではある。

開会式のアトラクションでは、中国の長い伝統文化が壮大な演出で紹介されていたのを思い出す。その中に漢字や毛筆による中華の伝統文化が想像力豊かに表現されていて、世界の人々

を釘付けにしたのではない。しかし、そうした中国の伝統文化も、昔から世界の人々にすんなり受け入れられてきたわけではない。ことに清末から近代にかけては、国際社会の流れから完全に落伍してしまい、中国文化は国内の一部のインテリの自己矜持のものでしかなくなっていた。まさに遠い雲霞の天外天だったのである。近代世界との共時性のもとで中国文化を語るには、当時の世界とのギャップをどう埋めるかが深刻な課題だったのである。

中国学をいかにして近代的なものに刷新して

いくか。この難題に取り組み大きな足跡を残した一人が、わが名大附属図書館蔵「青木文庫」の主たる青木正児博士（東北・京都帝国大教授）である。博士は、当時、北京で同様の近代的中国学をめざして日夜苦闘していた胡適に、自分の思いのたけをつづり、近代西洋の新しい学問の方法も取り入れた中国学をともに築くべく、何通もの書簡を送っている。この二人がいなかったならば、北京五輪もあと何回か遅れていたかもしれない。その書簡の全写真が、今回、特別に中国社会科学院の許可を取り付けることができ、本学附属図書館へ贈られてきたのである。女子レスリング・女子ソフトの歓喜の涙が世間を熱狂させていた片隅で、じつは名大も隠れバンザイをしていたのだった。

青木の書簡は、1920年（大正9）のものが8通（計34枚）、21年が10通（計30枚）、23年が1通（計2枚）、年代不明のものが1通（計4枚）、それに資料が2点（計32枚）という多量のコマ数にのぼる。正直、よくぞ中国社会科学院がご同意して下さったと驚喜を禁じ得ない。

青木博士の胡適宛書簡集は、もと胡適の秘蔵だった。それが現在は中国社会科学院近代史研究所に所蔵されている。なぜ個人所蔵の書簡が、公共のしかも国家の最高アカデミー機関に保管されているのか。それを理解するには、胡適（1891-1962）の生涯について知らなければならない。彼は清末、いち早くアメリカのコロンビア大学に留学、デューイのもとでプラグマティズムの哲学を学んだ。そして1917年（民国6）に、アメリカから口語文による白話文学を提唱して文学革命を後押し、魯迅などによって推進される契機を作った。まさに時代の先端を風切るフロンティアの人間だった。のち北京大学学長に招かれて帰国、同大学教授となり、自身プラグマティズムによる近代的学問研究を推進。その後、蒋介石に接近し、1938年、駐米大使となり、1942年に帰国、1946年には北京大学学長を務めている。しかし1949年、共産党が国内戦争に勝利したことにより、身一つでアメリカに亡命。この時、大量の遺稿や書簡（著名人のものがワンサカある）が、北京の旧寓邸（北京東廠胡同一號）の五大間書庫に残された

のである。この中に、わが青木博士の書簡も含まれていた。近代中国史を知る上でまことに貴重な資料であるゆえに、後に中国社会科学院近代史研究センターに移管されたという次第である。

胡適の残したこれらの歴大な文書は、1994年に耿云志主編『胡適遺稿及秘蔵書信』という書名で、黄山書社から影印の形で全42冊が刊行された。青木博士の書簡は、その第42冊目に計16通（じつは4種あるハガキの文面を誤って2枚分の裏表として数えており、正しくは18通ある）、および附録（「胡適之の中国哲学史覗き見の事」『青木正児先生替我鈔 水滸伝的記載』）二編が掲載される。

これまで青木の胡適宛書簡を見るには、この『胡適遺稿及秘蔵書信』に頼っていたわけだが、しかし大きな問題があった。青木の便箋の真ん中には絵が描かれており、その部分と文字とが重なっているため、白黒の影印では重なってしまい判読できなかったのである。これでは何が記してあるのか全く不明である。

そこでこの春、思い切って面識のない耿云志氏に手紙を差し出すことにした。私の手紙は電子機器で作成したもので、情緒のかけらもない。青木先生の文雅さとはまるで比ぶべくもない。ふと頭の中を、人類のこの手紙文化はまぎれもなく絶滅項の一つになるだろうという思いがよぎる。昔の手紙は単なる伝達手段ではなく、あの鳥の巣のアトラクションで表現していたように、すぐれた筆記文化でもあったのだ。

私は電子文字で問いかけた。「もし青木先生の書簡の現物を所有しておられるならば、カラー写真を寄贈していただけないか」と。すると、幸いにも快諾する旨のご返事が届いた。無論、あちらも同様の電子文字で。これを青木先生と胡適は、肉筆の手紙で一文字一文字書きつづり、自分の情熱とともに相手に思いを届けていたのである。この種の手紙は書き手のリアリティまで運んでくるから、ストレートに思いが伝わってくる。かくて相互に超人的怪力を生み、古い中国学の扉をこじ開け、まばゆい曙光を力強く引き寄せることとなったのである。

その後、作業は私と中国社会科学院近代史研究所の関傑図書館長との間でなされ、撮影方法

や対象となる資料の確認など何度かやり取りを行った。北京オリンピックで沸き立っている中、ご無理な作業をして下さった方には心からお礼申し上げる次第である。そして、ついに青木の胡適宛書簡の全写真計 20 通及び附録「胡適之の中国哲学史覗き見の事」「水滸伝」を寄贈していただくことができた。しかも、『胡適遺稿

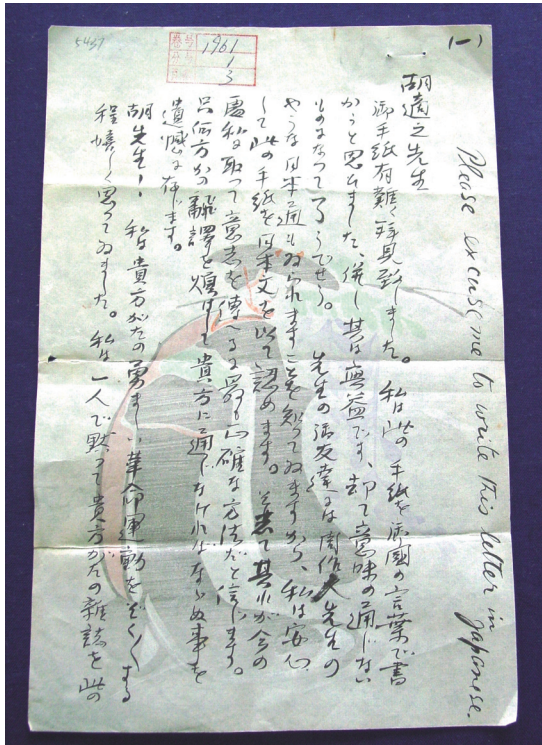


写真1 青木正児の胡適宛て手紙の一部
(1920年(大正9)10月1日付け)

及秘蔵書信』に収録されない2通分を含む。また絵ハガキは絵の部分の写真までである(『胡適遺稿及秘蔵書信』には、絵は掲載されていない)。おまけにカラー写真なので、絵と文字が黒く重なった部分もすべて判読可能である。加えて、附録の「胡適之の中国哲学史覗き見の事」に引いた赤い傍線部も鮮明に分かる。この朱線により、青木博士が胡適に伝えたかったところが浮かび上がってきたのである。写真ではあるけれども、88年ぶりの書簡の帰国に改めて歴史の重みを感じた次第である。

早速、伊藤義人本学図書館長から同院に感謝状をしたためるとともに、この写真を複製して「青木文庫」の一冊として大切に保管することが決定された。このような完全な形で青木書簡集は、現在のところ名古屋大学でしか見られない。もともと研究用資料として撮影されたものなので、博物館の図録のような精巧な美しさというわけにはいかないが、青木・胡適研究にはきわめて貴重な資料である。この錦秋、名大は三人もノーベル賞を受賞して大いに湧いている。その陰で、じつは今夏のこの日中学術文化交流の金牌もうれしかった。名大は文系部門でもまた一つの誇りを手にしたのである。

(かとう・くにやす 文学研究科教授)

東海地区の公共図書館から、図書を取り寄せることができます！

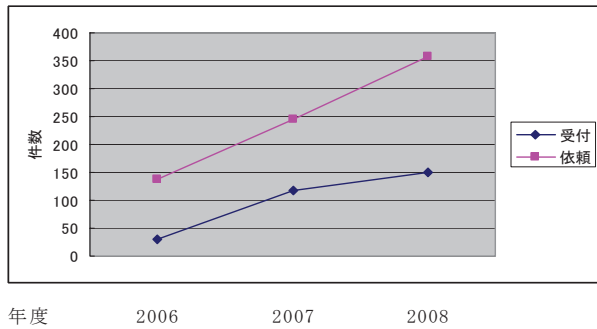
—公共図書館との相互利用について—

情報サービス課相互利用掛

皆さんはご存知でしたか？ 愛知、岐阜、三重、静岡各県の県立図書館や、4県内の60館以上の市町村立の公共図書館から中央図書館経由で図書が借りられる制度があることを。

愛知県・岐阜県・三重県・静岡県の公共図書館と大学図書館の間で、利用者サービスの向上を目指して東海地区図書館協議会が2004年11

月1日に発足しました。この制度には、2008年9月現在で、愛知県—公共図書館55館・大学図書館17館、岐阜県—公共図書館3館・大学図書館1館、三重県—公共図書館5館・大学図書館2館、静岡県—公共図書館1館・大学図書館2館の総合計86館が加盟しています。



* 但し2008年度は上半期実績からの推定
 * 「受付」は公共図書館からの借用申込みのあったもの。
 「依頼」は公共図書館に借用を申し込んだもの。

図1 愛知県図書館定期便実証実験による
 受付および依頼件数の推移

東海地区図書館協議会は、2005年5月11日に資料相互利用に関する協定を制定し、加盟館の間で図書相互貸借が可能になりました（利用者に送料の負担があります）。

さらに、その制度の中でのひとつの実験として、2006年5月1日、愛知県図書館の呼びかけにより「愛知県図書館定期便実証実験」が始まりました。この実証実験に参加することにより、名古屋大学では中央図書館相互利用掛を窓口として愛知県内の公共図書館から無料で図書を取寄せることが可能になりました（送料は、名古屋大学中央図書館と愛知県図書館がそれぞれ発送する時の分を負担しています）。愛知県図書館が大学図書館と公共図書館との中継点となり、愛知県図書館と名古屋大学中央図書館との間に週一回定期便を設けています。大学図書館では、他に名古屋市立大学、南山大学が愛知県図書館との実証実験に参加しています。

たとえば皆さんが名古屋市鶴舞中央図書館と音羽町図書館の図書を借りたいと思えば、名古屋大学中央図書館相互利用掛に申込みをして下さい。相互利用掛から鶴舞中央図書館と音羽町図書館に依頼をし、鶴舞中央図書館は名古屋市図書館間の搬送便を使用し、また音羽町図書館は愛知県内の公共図書館間で行っている搬送便（中継基地は愛知県図書館）を利用して、こちらが依頼した図書を愛知県図書館に送ります。愛知県図書館では、送られてきた図書をまとめておき、週に一度、決まった曜日に名古屋大学に送付します。返却する場合や名古屋大学から貸し出す場合（2007年2月から名古屋大学では、

中央図書館の蔵書だけでなく、部局図書室の蔵書も貸出の対象に拡大しました）は、この逆の道順になります。

なお、岐阜県・三重県・静岡県公共図書館の一部から借りる時には、相手館ごとに条件が異なったり、送料の負担がある場合がありますので、中央図書館相互利用掛で確認してから申し込んで下さい。

また、公共図書館へ文献複写を依頼することも可能です。複写費用は、相手図書館の規定により、支払方法、料金などが異なります。

この制度による利用は、名古屋大学内の利用者が外部図書館の資料を利用する場合と、外部の参加図書館の利用者が名古屋大学内の図書館室の資料を利用する相互の利用形態がありますが、最近の利用状況を図1に示します。

実証実験による相互貸借は、グラフに見られるように、スタート以来順調に実績を伸ばしていますが、この方法が万全とは言い切れません。たとえば早く図書を手にしたいという場合です。現在、愛知県図書館との便は週1便しかありません。また公共図書館間の便も名古屋市図書館を除き週1便で運用されています。皆さんが申込まれたタイミングによっては、1週間以上お待ちいただくことがあります。搬送に日数がかかることは返送時にも共通している問題で、その結果、図書を借りていられる期間が短くなります。その他に、人気の高い図書だと予約待ちで1年近くかかる場合や予約が多いと断られる場合もあります。また公共図書館では新刊図書の貸出を当該市・町の住民に制限している場合もあります。

現状では課題も残されていますが、大学図書館と公共図書館が連携して利用者サービスに拡大・向上させていこうとする試みはこれからも推進されてゆきます。お互いの図書館の利点を生かし、図書資源の共有と活用のため、息の長いサービスに育ててゆきたいと奮闘しております。

最後になりましたが、まだ名古屋大学中央図書館を通して東海地区4県の公共図書館から図書を借りたことのない方は是非ご利用下さい。

申込・問合せ先 中央図書館相互利用掛（中央図書館2階相互利用カウンター 内線 3682, 3683）

Webからの申込も歓迎します。Webからの申込の場合、「サービス情報」の申込館は「60 中央館」を選択して、必ずコメント欄に“東海地区4県の公共図書館希望”または“愛知県図書館便希望”等と記入して下さい。

本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成20年7～9月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

（寄贈者の敬称は略します。）

所 属	寄 贈 者 名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配 置 場 所
教育発達科学研究科	速水敏彦	我最厲害！：能力錯覚の世代／速水敏彦 [著]；黄桂譯（他人を見下す若者たち）--台北：平安文化，2008.5	11629535	中央学 3F 371/H
教育発達科学研究科	近藤孝弘	東アジアの歴史政策：日中韓対話と歴史認識／近藤孝弘編著--東京：明石書店，2008.8	11635377	中央学 3F 220/Ko
法学研究科	大屋雄裕	情報とメディアの倫理／渡部明 [ほか] 著--京都：ナカニシヤ出版，2008.7	11633027	中央図 4F 007.3/W
法学研究科	和田 肇	ウォッチング労働法／土田道夫，豊川義明，和田肇著--東京：有斐閣，2007.3	11637004	中央学 3F 366.14/Tu
経済学研究科 （国際経済研究センター）	薛進軍	中国の不平等 = Inequality in China / 薛進軍，荒山裕行，園田正編著--名古屋：名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター，2008.6	11629489	中央図 1F 331.85/Se
医学部保健学科	辛島千恵子	発達障害をもつ子どもと成人、家族のためのADL：作業療法士のための技術の絵本／辛島千恵子著--東京：三輪書店，2008.3	11630066	中央学 3F 493.937/Ka
国際開発研究科	浅川晃弘	オーストラリアにおけるアジア系専門職移民の政治・社会参加／研究代表者 石井由香 = Political and social participation of Asian migrant professionals in Australia / head investigator, Yuka Ishii	11635378	中央学 3F 334.471/I
名誉教授	森 正夫	アジア学の明日にむけて／東京大学東洋文化研究所編--東京：白峰社（印刷），2008.3	11629534	中央学 3F 222.07/To
名誉教授	鈴木太七	森林経営学論文集／鈴木太七著--[出版地不明]：[鈴木太七]，2008.3	11631054	中央学 3F 655.104/Su
名誉教授	八田武志	左対右 きき手大研究／八田武志著--京都：化学同人，2008.7	11633034	中央学 3F 491.37/H

~~~~~

### 《利用者から見た図書館》

## 図書室受付から広がる世界

河 辺 亮 輔

私は国際開発研究科に所属する大学院生で、  
本年4月より国際開発研究科図書室の夜間受付

のお手伝いをさせていただいています。これまで読む本といえばマンガ、といった私にとって

こうしてじっくり図書館と向き合う機会はなく、さまざまなことを勉強させていただいています。

まず、その本の多さ。図書館だから当たり前なのですが、これまではパソコンで読みたい資料を検索してその本を借りるくらいの利用しかしていなかったので関係のない棚の本を見ることはありませんでした。それが、本の返却で様々な棚を巡ることで、思いもかけない本に出会うことができます。ただ興味があって惹かれる本、自分の研究と関連していてとても役に立つ資料…。毎週図書館で業務を行うたびに何冊かの本を借りて帰る生活になりました（こうして借りた本の全てを読むのかどうかはまた別問題ですが…）。また、本を返却しているときに感じることもあります。返却する本の多くが棚の上下でいったら大体真ん中あたりにある本だ、ということ。人間は目の届くところしかなかなか見ないのだから、と勝手に解釈し（合っているのかはわかりません）、目につきにくいところにも面白い本があるのではないかと、思い棚の下段などなかなか目につかない箇所からも積極的に本を探すようになりました。

そして、利用者とのちょっとした会話の楽しみです。国際開発という場所柄か、国籍を含め様々な人たちが図書室を利用しにやってきました。本をお借りくださるときに二言三言会話をすることも、また、他の利用者があまりいないときは迷惑にならない程度に本の話等で盛り上がることもあります。お薦めの本を紹介してもらったり、逆に本の探し方や利用者の方の興味のあるような本を紹介したり。一度、他研究科の方にこの図書室は歓迎してくださり雰囲気がいいですね、と言っていたときは自分自身が褒められたわけではありませんが、何となく嬉しくなりました。

ささやかだけれど、ちょっと楽しい時間。週に1回、2時間という決して長い時間ではありませんが、今週はどんな出会いがあるだろうか、と少しわくわくしながら毎週図書室へと向かいます。

(かわべ・りょうすけ 国際開発研究科 博士課程前期2年)



## 2008年名古屋大学附属図書館 源氏物語千年紀記念事業 「源氏物語の書物と絵画」展示会を開催しています



『源氏物語』は、日本の王朝文化のみならず今や世界文学を代表する作品として高く評価されています。今年は「源氏物語千年紀」とされ、世界の各地で行事が行われており、その一環として名古屋大学でも附属図書館や教員所蔵の貴重な書物や絵画資料を紹介する展示会を開催中です。貴族、武家、町衆など多様な階層の人々によって享受された源氏文化ともいべき伝統を展示して、物語本体のみならず、和歌、教養書、浮世絵など日本文化を広く紹介しています。

期 間：2008年11月10日（月）  
～11月24日（月）

（日曜日のみ閉室です。ご注意下さい。）





